

業務量が増加している建設コンサルタント業界において、橋梁など構造分野で存在感を高めている。需要の変動に耐えられる強靱（きょうじん）な体制の構築が喫緊の課題。「現有戦力を生かしながらグループ会社など含め企業力の底上げを図りたい」と語る。

◇ 社長就任に向けた考えを。

「東日本大震災の復興やインフラの老朽化対策、国土強靱化などの分野で発注量が増え、業界各社が抱える仕事はオーバーフロー気味になっている。公共事業予算の増額がいつまで続くのか、先を見通すのは難しい。需要のなだらかな変化には対応できても、急な増

あきら
晃氏

たかく
高久

大日本コンサルタント

合理的生産体制で利益確保

減への抵抗力には劣る部分がある。仕事が増えれば社員の負担が大きくなり、減

れば業績が急降下してしまう。そうならないために、大きな波が来ても耐えられる企業体質の強靱化に取り組み必要がある」

——経営の方針は。

「市場環境だけを捉えれば、年間150億円の受注も可能だろう。しかし、人材確保は容易でなく、生産力を急に増やすことはできない。現有戦力を生かしながらグループ会社、協力会社を含め、企業力を底上げするための自己改革に取り組むたい」

——目標は。

「今後も6支社3支店の体制を保ち、強みである地方自治体との関係を維持しながら、当面は受注高120億円というラインを守っていく。市場環境は良く、東京五輪の開催も決まった。現状を前向きに捉え、得意分野が重ならない企業との連携の可能性を探りながら、業容の拡大などを図っていきたい」

——人材の確保と育成にはどう取り組む。

「技術者は橋を架けたい、街づくりに関わりたいという思いを持って入社してきたと思う。これまでの業務を通じて発注者の信頼は得られており、特に地方自治体とは良い関係を築けている。ただ業界全体で過重労働が常態化している現状で、技術者の熱心さに会社が甘えてしまっている部分もあつたのではないか。社員本人は仕事に満足しているも、家族が心配しているケースもあるだろう。仕事に対するモチベーションを保ちながら、職場環境などをどう改善していくのか、対応を考えていく」。

（9月20日就任予定）



新社長

78年金沢大工学部卒、大日本コンサルタント入社。06年取締役経営統括部長、09年業務管理担当兼執行役員業務統括部長、10年海外事業担当、11年常務技術統括担当兼西日本経営統括担当、12年専務。「週末のうち1日は仕事を忘れて夫婦の時間を大切にしている」という愛妻家。